

《担当者名》大須田祐亮

【概要】

障害を持った子どもの正常運動発達からの逸脱を的確に評価し介入するために、正常な運動発達について、運動以外の発達との関連性を踏まえながら解説する。また理学療法の対象となる、発達段階において生じる中枢神経障害や末梢神経障害、筋骨格系障害を持った子どもについて、疾患の原因、症状、予後、運動機能を中心とした障害像を学修する。さらに、各々の疾患や障害に特有な理学療法の評価や介入の実際、およびエビデンスについて総合的に理解する。

【学修目標】

【一般目標】

発達障害分野の理学療法を理解するために対象となる各疾患群の障害像および評価法、介入法について学び、これらを説明できる。

【行動目標】

1. 発達障害分野の理学療法の対象となる疾患群の障害像を説明できる。
2. 発達障害分野の理学療法における特徴的な評価法を説明できる。
3. 発達障害分野の理学療法における特徴的な介入法を説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション 概略	講義の概要、学習目標・内容、スケジュール、学習方法の説明 発達障害理学療法の特殊性	大須田祐亮
2	運動発達	概略、原始反射	大須田祐亮
3	運動発達	0～6ヶ月	大須田祐亮
4	運動発達	7～12ヶ月	大須田祐亮
5	低出生体重児、ハイリスク児	低出生体重児・ハイリスク児に対する理学療法	大須田祐亮
6	筋ジストロフィー	筋ジストロフィー症に対する理学療法	大須田祐亮
7	脊髄性筋萎縮症、ダウン症	脊髄性筋萎縮症、ダウン症に対する理学療法	大須田祐亮
8	二分脊椎症	二分脊椎症に対する理学療法	大須田祐亮
9	小児整形疾患	小児整形疾患に対する理学療法	大須田祐亮
10	脳性麻痺	概略	大須田祐亮
11	脳性麻痺	脳性麻痺に対する理学療法	大須田祐亮
12	脳性麻痺	脳性麻痺に対する理学療法	大須田祐亮
13	重症心身障害	重症心身障害に対する理学療法	大須田祐亮
14	発達障害	発達障害に対する理学療法	大須田祐亮
15	理学療法介入	発達障害分野の理学療法介入	大須田祐亮

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

筆記試験 85%

小テスト、提出物など 15%

試験に関するフィードバックの方法

- ・定期試験および追再試験実施後、問合わせがあった際には模範解答を開示する。

【教科書】

上杉雅之 監 「イラストでわかる小児理学療法」 医歯薬出版 2013年

上杉雅之 監 「イラストでわかる小児理学療法学演習」 医歯薬出版 2018年

【参考書】

神内一保 他 監 「こどものリハビリテーション医学」 医学書院 2008年
藤井克則 編 「動画でわかる小児神経の診かた」 羊土社 2020年

【備考】

講義終了時に小テストや提出物などの課題を設定することがある。
課題は、かならず期限までに解答・提出すること。

【学修の準備】

指定された教科書を用いて、次回授業範囲を必ず予習すること（80分）。
復習は、プリント、講義メモ並びに教科書、参考図書を活用して学修を深めること（80分）。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP3）理学療法士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

【実務経験】

理学療法士

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関や社会福祉法人での実務経験を活かし、発達段階において生じた障害を持つ子どもに対する理学療法の実践に必要な基本的な考え方について講義する。